

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	イ	21
問二	エ	22
問三	ウ	23
問四	ク	24
問五	ラ	25
	ス	
	デ	
	の	
	イ	

問六	⑥	(完全) 答
	ウ	
	⑦	
	イ	
	⑧	
	ア	
	⑨	
	オ	
	⑩	
	エ	

問七	A	(完全) 答
	自分	
	B	
	で	
	きる	
	こと	

問八	⑫	(完全) 答
	エ	
	⑬	
	ウ	
	⑭	
	イ	
	⑮	
	ア	
問九	イ	
問十	ウ	

問十一	A	(完全) 答
	不	
	B	
	安	
	C	
	心	
問十二	イ	

2

問一	A	(完全) 答
	生	
	物	
	多	
	様	
	性	
	B	
	沿	
	岸	
	漁	
	業	33
問二	ウ	34
問三	イ	35

問四	自	(完全) 答
	然	
	の	
	秩	
	序	
問五	ア	37

問六	生	(完全) 答	
	き		
	物		
	に		
	対		
問七	イ		38
	イ		39

		5		4		3				問八			
⑥	①	①	①	①	①	問九		ら	在	や	自		
犯罪	旧式	カ	ま	イ	ま	イ		。	に	重	分		
61	56	51	46	問十		ウ	44		は	要	た		
⑦	②	②	②	ウ			45		は	要	た		
敗因	カ演	コ	ど						は	要	た		
62	57	52	47						、	だ	ち		
⑧	③	③	③						、	だ	ち		
営	余談	オ	た						気	と	に		
63	58	53	48						づ	思	あ		
⑨	④	④	④						づ	思	あ		
久	夕刊	キ	く						か	っ	ま		
64	59	54	49						か	っ	ま		
⑩	⑤	⑤	⑤						な	て	り		
喜	保険	イ	ひ						な	て	り		
65	60	55	50						い	い	必		
									の	な	要		
									の	な	要		
									が	い	の		
									が	い	の		
									普	も	な		
									通	の	い		
									通	の	い		
									だ	の	も		
									だ	の	も		
									か	存	の		
									か	存	の		
												40	
												41	
												42	
												43	

(配点)

① 各5点

② (問七) 2点、(問八) 8点、他各5点

③④⑤ 各2点

計150点

【解説】

1 ささきありの『天地ダイアリー』（フレーベル館）から出題しました。クラスの「下層」にいる自分は、「下層」にいる人らしく過ごさなければならぬと思ひこんでいる「ぼく」が栽培委員として植物の世話をするうちに、少しずつ自分だけでなく周囲の人たちへの見方も変わっていく姿が描かれています。花壇に植えられた花と自分を重ね合わせている「ぼく」の心情を丁寧に読みとりましょう。

問一 B1 理由 比較

——線①の直前に「その態度」とありますが、これは工藤の「傘についた花や葉を、めんどくさそうに払ったり、傘をふったりして落とす」ときの態度を指します。1ページの上段に「反射的（はんしゃてき）にかけだしていた。花は？ 花はどうなった？」とあることから「ぼく」は花を大事に思っていることがわかります。その花をうっとおしいもののようにふり落とされていたことに怒りを覚えたのでしょうか。「ぼく」がここまで花を大事に思っている理由が——線④の三行後に示されています。「連れてこられた場所ではがんばっている花に、自分を重ねたからか？ 花を大事にしている人たちの顔が浮かんだからか？」とあります。——線①の段階でははっきりと認識しているとはいえないませんが、心の奥で花と自分を重ね合わせていたこと、花を大事に育てている人たちを大事に思っている気持ちがあったことから、これほど感情が高ぶつたのだと考えられます。ですから、この二点が入っている選択肢であるイが正解です。ア「割り切っていた」、エ「工藤が『ぼく』を軽く見ていたことをさとる」の部分が本文から読みとれませんし、ウは——

線①の後のできごとが書かれています。——線より後で心情の理由が判明することがありますので、物語文は、一通り本文を読んでから問題にあたった方がよいでしょう。

問二 B1 具体化 比較

工藤にとつて、花はそれほど大事なものではありません。工藤に見れば友達とふざけていたら、突然仲のいい「ぼく」から怒鳴られたのですから、とまどつたと考えられます。

問三 B1 具体化 比較

——線③に「吐きすてるように言う」とありますから、わざとしたことではないと説明したのに責められ、いら立ったことがわかります。また「早足で行ってしまった」から、早くこの場から立ち去りたいという気持ちが読みとれます。これも——線⑦以降で判明することですが、工藤は傘で花を傷つけたのは申し訳ないと思つています。悪いことをした、とわかっているけれど、いきなり怒鳴られ責められ、「知るか」と言ってしまった以上ひっこみがかず、気まづくなり「早足で行ってしまった」のだと考えられます。ア「しつこく責任を追及する『ぼく』の豹変（ひょうへん）ぶりが気味悪く」、イ「謝りたい気持ちも消え失せ『ぼく』と距離をとりた（い）、エ『ぼく』が信じてくれないので裏切られたように感じ…ショックで」の部分が本文から読みとれません。

問四 B1 具体化 関係づけ

「なんであんなことを、言っちゃったんだろう」と怒鳴ったことを後悔しているのは、「を失った」からです。

——線④の直後から八行にわたってぼくの後悔が書かれている部分を読みましよう。「クラスでの居場所をなくしてしまつた」とあります。「失つた」と「なくした」は同じ意味です。リード文を参考に、書きぬく言葉を見つけましよう。
 ※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

B1 関係つけ

⑤の直前の文に「工藤の前から自分の存在を消してしまいかつた」とありますので、ここには「息を殺す」が当てはまります。ア「口をつぐむ」は話すのをやめる、という意味ですからあてはまりそうですが、「口をつぐむようにして」授業を終えた」では意味が通りません。ウ「腰をすえる」：落ち着く、落ち着いて一つのことをする、エ「目もくれない」：見ようともしない、相手にしない、という意味です。

問六

B2 関係つけ **比較**

ハハ(母親)と「ぼく」の会話文です。受け答えになるように当てはめていきましよう。まず口調やこの場の状況から、選択肢のセリフが誰のものを仕分けまます。また、質問に対する答え、のように受け答えがはつきりセットになっているものもチェックましよう。ア・ウ・オは母親、イ・エは「ぼく」です。そして、ウ(質問)とイ(答え)、オ(質問)とエ(答え)がそれぞれセットになります。⑥・⑦は、直前に「ぼく」の「ブルーシート、ここにあつたよね？」というセリフがあることから、⑥はそれに対する母親のセリフ、⑦は⑥に対する「ぼく」のセリフが入りまますから、⑥はウ、⑦はイです。⑧「ハハが」

と疑問の声をあげる」とあることから、⑧にはアしかあてはまりません。⑨・⑩は「ハハに聞かれて、ぼくは：さげんだ。」⑩「とあることから⑨は母親の質問、⑩はそれに対する「ぼく」の答え、となるはずです。ですから、⑨はオ、⑩はエになります。

問七

B1 具体化 **関係つけ**

——線⑪の七行前では「花にとつて：わからない。：花壇の前に、立ちつくした」とあり、——線⑪で「傘を閉じて：コンクリートの縁に立つた」とあることから、なにか決心した(腹をきめた)ことがわかります。ですから、この間にその決心にいたるまでの気持ちを書かれているはずです。そこに「もしも花が話せたら：こんなところで終わりたくない」とあるように、「ぼく」は花の気持ちになつて、言い換えれば、花と自分を重ねていることがわかります。そして、決心したもう一つのきっかけとなつた菊池の言葉、「気がついていたら、できることがあつたはず」もありまます。ここで終わりたいくない自分のためにも、花を守るために、やれることはやろうと思つたのでましよう。ここからリード文にあてはまるよう、答えをぬき出ましよう。なお、「二字の熟語」と指定されているので、**A**に「ぼく」「木下」をあてはめるのは不適切です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B1 関係つけ **比較**

空欄の前後に注目して、あてはまる副詞を入れていきま

よう。⑫「⑫：顔を見た」とありますので、見るときに使う「ちらっと」があてはまります。⑬「⑬ きしむ」とあります。「きしむ」とは物と物がこすれあつて、音をたてることです。ここには「ぎりっと」が入ります。⑭直後に「思わず声のボリュームが上がる」「つせえな」などの怒りの表現があることから、ここには「むっと」があてはまります。

問九

B1 理由 比較

——線⑯の直前に「あー、また勢いで言ってしまった」「勢いで：自分が嫌になる」とあることから、阪田に感情的に反論してしまったことを後悔していることがわかります。阪田にも自分の嫌な一面を知られてしまった、という気持ちから目を合わせられないのでしょうか。ア「また同じ過ちをくり返したことを阪田に気づかれて」ウ「阪田に生意気だと思われたと思うと怖くなつて」エ「照れくさく」の部分それぞれ本文から読みとれません。

問十

B1 具体化 比較

——線⑰の直後に「不安そうな表情だ」とあることに注目しましょう。工藤は何が不安なのでしょう。——線⑰の六行後に「工藤もぼくに許してもらえないと思っていたとか」とあることからわかるように、工藤は「ぼく」を怒らせてしまった自分が、「ぼく」の前に現れてもいいのか、と不安に思っているのです。ア「徹底して無視していた自分」、イ「見てはいけないものを：気まずい気持ち」、エ「はげしい言い争い」が

本文の内容とあいません。また、エの「阪田に連れてこられただけの部外者である自分」の部分も、工藤からしてみれば、阪田のおかげで謝るチャンスができたわけですから、このような表現はこの問題においては不適切といえます。

問十一

B1 理由 関係づけ

——線⑱の直前の「ぼく」と工藤の会話から、互いに謝罪し、誤解もとけ、仲直りできたことがわかります。それまで、工藤は、「ぼくに許してもらえないと思つて」いました。もう友達でいられないかも、と不安だったことでしょう。そして、——線⑲で「ふつと：ほおをゆるめた」とあることから、——線⑳は仲直りできて、はりつめていた心がふつと楽になった、安心できたということがわかります。

問十二

B1 関係づけ

脱文挿入の問題です。脱文をよく読み、ヒントとなる言葉を見ぬきましょう。「みんなが『えっ、そうなの?』という表情になる。ぼくはあわてて手をふつた。」とあります。直前にみんなにとつて何か意外なことが起こったこと、そして、それを「ぼく」が否定していることがわかります。そのシチュエーションにあうのは、工藤が花を傷めたことを告白したことで、「ぼく」が工藤はわざとしたのではないと弁解したこの間にある【イ】だけです。

2

鈴木孝夫「日本の感性が世界を変えろ」(新潮社)から出題しました。本文の前半で、経済利益の増大を追求する人間による環境破壊の例として、ヴィクトリア湖の悲劇を例に出し、日本人の自然に対する「柔らかな謙虚な気持ち」を広く世界で共有することがこの「人類の危機」を回避するために必要なことだと論じています。後半で、俳句などを例に出しながら、日本人の「柔らかな謙虚な気持ち」は「生き物に対する共感的な感情」であることを示唆しています。また、アメリカでの体験から得た、欧米人の言語生活に「虫」に関する言葉が出てこないのは、彼らにとってそれは「あまり必要のないもの、重要だと思っていないもの」で「その存在に気づいていないからだ」という気づきが書かれています。日本人の言語生活には「虫」が多く出てきますが、それは日本人にとつて「虫」が身近に必要なもの、重要なものだからです。ここから日本人は「生き物に対する共感的な感情」を持つていて、といえます。前半と後半で別の話をしているようですが、実はつながっていることに気づけるとよいでしょう。

問一 B1 具体化 関係づけ

ヴィクトリア湖については、二段落から五段落にかけて書かれています。結末をきかれていますので、五段落を中心に書きぬく言葉を探します。そこには、「世界的に貴重だった『ダーウィンの箱庭』の消滅と、沿岸漁業の以前よりひどい衰退」と結末が書かれています。二段落にこの湖が「ダーウィンの箱庭」と呼ばれているのは、「生物多様性の宝庫」だからだとありました。「『ダーウィンの箱庭』の消滅」とは「A」の宝庫だった、ヴィクトリア湖の生態系が崩壊」と同意です。

ですから、Aには「生物多様性」が入ります。リード文に「ひどく衰退」とありますから、Bには「沿岸漁業」が入ります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B1 関係づけ 比較

接続語の問題では、前後の文の関係や前後の段落の関係に注目します。②の直前には「大成功でした」とあり、直後に「この外来種の：絶滅に追い込まれた」とあるので、ここには逆接の接続語があてはまります。③の前では、「草食性の固有種の：絶滅」とあり、後で「捕食者の減少した藻が今度は大増殖」とあるので、順接の接続語があてはまります。この二つの条件にあう選択肢はウです。

問三 A2 知識 比較

④にあてはまることわざは、「ちよつと見では分からない、複雑極まりない繋がり動いている」という意味のことわざですから、「風が吹けば桶屋が儲かる」があてはまります。ア魚心あれば水心：相手が好意を示せば、自分も相手に好意を示す気になること。相手の出方次第で応じ方が決まること。ウ棒ほど願つて針ほど叶う：大きな願いをもつていても、かなえられることがほんのわずかであることのとえ。エ千里の道も一歩から：大事なことも手近なところから着実に進めることが大事であることのとえ。

問四 B1 具体化 関係つけ

——線⑤の「人類の危機」とは、本文前半の主題である、とりかえしのつかないほどの環境破壊です。一段落に示されているように、前半部分では、ヴェクトリア湖を例に出し、「経済利益の増大を望む人間の手によって、自然の秩序が回復の見込みが立たなくなるほど大規模に破壊」されていることが説明されています。この部分からリード文を参考にしながら書きぬく言葉を探しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 B1 具体化 比較

——線⑥を含む部分を読みましょう。「命乞いをしているのだから助けてやれよという、このとっさのハエへの感情移入というか思い入れこそが、まさに生き物すべてに対する、側隠の情」とあります。相手の立場に立つて、その気持ちに寄り添おうとする、ということですから、答えはアです。イ「どんな苦勞もかつてようとはりきる」、エ「大事に守り、見ていたい」の部分が具体によりすぎています。ウ「さげすんだり、かわいそうがったり」の部分が下に見ていることになり、本文の内容とずれています。

問六 B1 具体化 関係つけ

——線⑦は、投書欄に送られてきた手紙の一節ですが、筆者はこの手紙の内容を「日本人の生き物に対する共感的な感情がふれている話」として紹介しています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解と

します。

問七 B1 関係つけ 比較

⑧を含む部分を読みましょう。「生まれればかりの怖いもの知らずの小雀が、進み来る危ない馬を、なかなかよける気配のないのを、⑧しながら見守った」とありますから、答えはイ「はらはら」です。「はらはら」は、不安な状況にある誰かを第三者の立場から見守るときの心情です。アの「おどおど」は自分自身が不安な状況にあるときに使います。ウ「もやもや」は心にわだかまりがあつてすっきりしないさま、エ「わなわな」は激しい怒りや興奮などで小刻みにふるふるさまを表す言葉です。

問八 B2 理由 推論

——線⑨の二段落後に、「蟬がちゃんと身の周りに沢山いるのに、見たことも聞いたこともないという…米国の学生たちの反応は：〈人間は自分たちにあまり必要のないもの、重要だと思っていないものは、たとえ身近にあつてもその存在に気づかず、それを表す言葉もないのが普通だ〉とあり、それは、「人間の認識の仕組みが持つ文化的選択性(偏り)の、面白い一つの例とすることが出来る」とあります。「人間の認識の仕組み」に注目して」という問題文のヒントを利用してこの部分から答えを作りましょう。ここではある言語においてその言葉があるかないかの話をしていないので、「それを表す言葉もない」の部分は必要ありません。また、リード文に、「たとえそれが自分の身近にあるものだとしても」とあるので、「たとえ身近にあつて」の部分も必要です。以上のことを参考に、

リード文に続くよう記述します。理由を聞かれているので文末は「〜から。」です。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問九

B1 具体化 比較

——線⑩の二文後に「(英語の「虫」は)どれも日本語の虫のように意味が広くはなく、使える範囲も限られていることばで、しかもこれらは日本語の場合のように、やたらと日常の言語生活には出てきません」とあります。ア「研究の場のような特殊な場面」、ウ「蟬やバッタなどを総称して言う言葉がない」エ「ただ一つ、『虫』しかない」の部分が不適切です。

問十

A2 知識 比較

イ「読書の虫」の「虫」は、一つのことの中に夢中になる人という意味です。本などにつき、紙を食べる虫の様子が、まるで本に夢中になる人のようにだつたことが由来と言われています。「腹の虫」の「虫」は、実在するものではありません。いわば人の気持ちを動かすと考えられているものです。ですから、答えはウです。

3

A1 知識

少し難しい言葉の問題です。知らなかった語や使い方が分からない語はきちんと確認しておきましょう。

4

A2 知識 比較

敬語の問題です。相手側の行為には尊敬語、自分側の行為には謙譲語を使います。その語の主語にあたるのが自分側の人間か、相手側の人間かをとらえましょう。

- ①「見る」のは自分ですから、謙譲語の「はいけんする」を使います。
- ②「聞く」のはAさんですから、「聞く」の尊敬語である「おききになる」を使います。
- ③「食べる」のは自分ですから、「食べる」の謙譲語である「いただく」を使います。
- ④「来る」のはおばさんですから、「来る」の尊敬語である「いらっしゃる」を使います。
- ⑤「する」のはCさんですから、「する」の尊敬語である「なさる」を使います。